

令和5年度 第13回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和5年11月13日（月）11:00～12:30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：4 名

新垣真太郎（沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班主任）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：5 名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）

陪 席：1 名

西佐和子（琉大病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和5年度 第11回ベンチマーク部会議事要旨について
2. 令和5年度 第12回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1・2に基づきベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。各自確認し修正等があれば、事務局に連絡をお願いしたいとのことだった。

3. その他

増田部会長より、11/10に行われた沖縄県がん診療連携協議会で、ベンチマーク部会案として審議にかけた結果、概ね賛成だったとの報告があった。続いて今後の予定については、一旦27日締め切りで協議会委員から意見を頂戴して、再修正をかけたもので10人程度にパイロット調査を行い、部会で最終案をとりまとめる。そして、メール審議をして最終決定をする段取りになっているとの報告があった。

【協議事項】

1. 質問内容について

（1）質問数

埴岡委員より、質問数が62個から28個になった経緯について、増田部会長に質問があった。増田部会長より、第1回目の質問を全てカットしたことにより、7～8割減った。次に「～できていますか？」という質問を基本的には全部カットした。そして各中間アウトカ

ムに対して2つ以上の質問があるところは、委員の意見を参考にした上で、1つに絞り込んだ。その3つのやり方で28個になったとの回答があった。また、分母と分子を分けて質問にしていたところを、分母分子を合わせた質問に改定したことによって、2～3個の質問が減っていると思われるとのことだった。

(2) 選択肢

埴岡委員より、五択のパーセントの聞き方にいくつかのパターンがある。五択とのみ書いてあるところに関しては、別途一例でも示していただけると、5段階の刻み方が分かるのではないかと提案があった。増田部会長より、選択肢について説明があった。今回の選択肢は全部で3種類ある。ひとつは通常五択<①とってもいい②ちょっといい③どちらともいいない④少しいいない⑤全くいいない>、そしてパーセントを選ぶ選択肢が2種類ある。回答が少ないだろうという質問に関しては0%以下を5つに刻んでいる選択肢<①0%②1～5%③6～10%④11～20%⑤21～50%⑥51～100%>、だいたいやっているだろうと思われる質問に関しては25%刻みの選択肢<①0～24%②25～49%③50～74%④75～99%⑤100%>その2種類がある。選択肢としては五択になるとのことだった。

新垣委員より、真ん中の値「どちらでもない」を入れると、回答がそこに集まるのではないかと以前から話が出ていたかと思うが、どうするのか。また協議会では、回答者が答えられない時は「分からない」という選択肢があってもいいのではという意見が出ていたので検討していただきたいと提案があった。増田部会長より、患者体験調査で議論して二転三転したが、結局「どちらでもない」を第二回・第三回調査でも入れた。真ん中の値はあった方がいいという専門家の意見を入れて4択ではなく5択にした経緯があるので、今回も五択にしようと考えているとの回答があった。井岡委員より、前回の調査の時は、回答なしが推測の域に留まっていたので、「分からない」という選択肢があった方がはっきり分かっていいのではないかと意見があった。協議の上、選択肢として「分からない」を入れることになった。

2. 初めの質問項目(5問程度)の検討について

3. 調査の目的や意義付けについて

増田部会長より、資料7を各自確認していただくことをお願いして、次回へ持ち越しになった。

4. 次回ベンチマーク部会開催日程について

今回は二週間後(11月27日～12月7日を予定)を目途に開催することとなった。

5. その他

特になし。